

(6) 北陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加の動きに一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、_ は下方に変更)

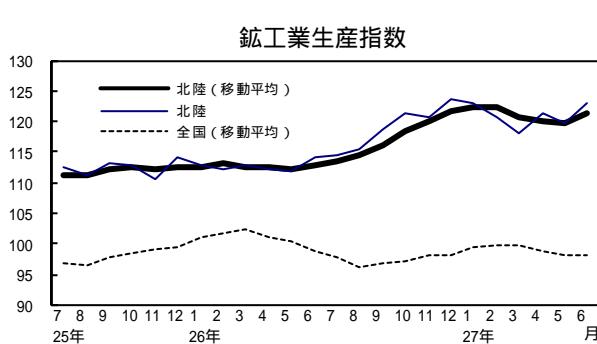
前回調査からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、増加の動きに一服感がみられる。

4～6月期には、電子部品・デバイスは、電子部品が中国でスマートフォン向け部品の高機能化が進んだ影響などで増加した。化学は、医薬品が減少したものの、依然として高水準を維持した。はん用・生産用・業務用機械は、金属工作機械が海外の自動車向けが不調だった影響などから減少した。繊維は、国内向け衣類の不調などから減少した。金属製品は、建築用金属製品が持ち直した影響などから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

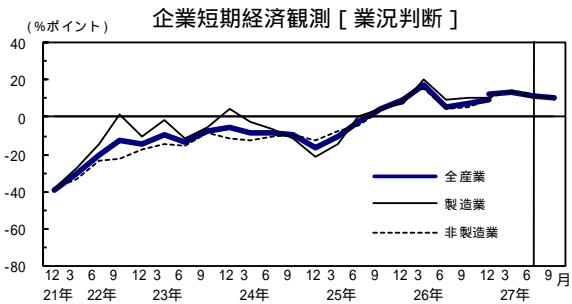
	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	20.8	2.8	2.8	9.5	1.7	1.3
化学	13.5	4.9	3.7	1.4	3.9	2.2
はん用・生産用・業務用機械	12.7	1.9	9.0	16.1	6.1	16.7
繊維	8.4	1.5	3.5	0.5	3.0	3.3
金属製品	6.0	3.7	0.2	1.4	2.2	3.9
鉱工業	100.0	1.0	0.7	2.9	1.5	2.9

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

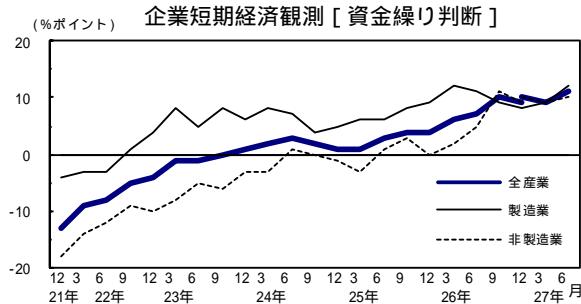
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4～6月期、6月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

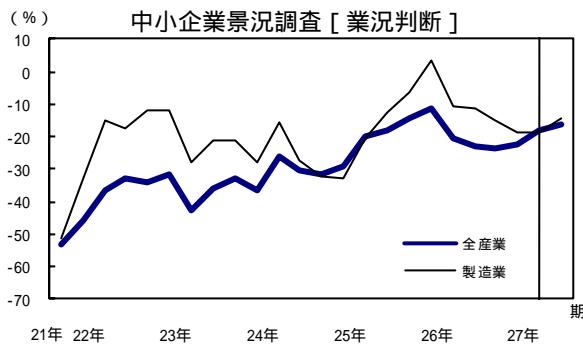
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

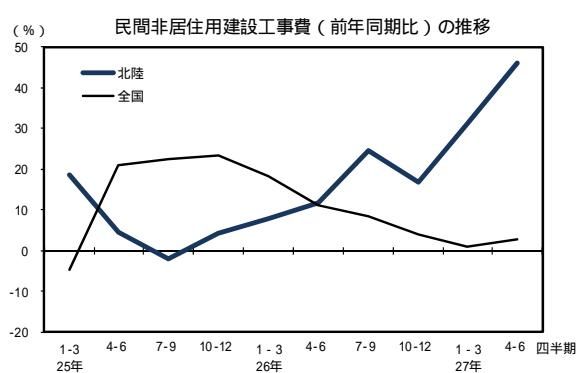


(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。27年一期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (7月) [企業動向関連 (現状)]

「受注の動きは足踏み状態で、前年並みで推移している。特に国内関連のファッショング衣料の動きが良くない(繊維工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比 %)

	26年度実績	27年度概
全産業	44.0(16.4)	46.1(65.5)
製造業	32.9(4.5)	43.8(29.8)
非製造業	56.9(48.7)	48.4(2.2倍)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数（R D E I（消費））

4月は前月比0.9%減、5月は同0.4%増、6月は同1.1%減となった。

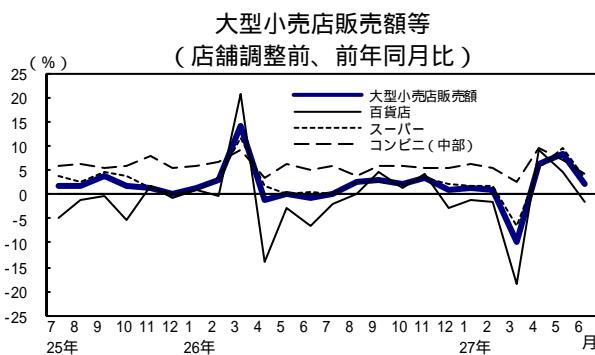
大型小売店販売額

百貨店については、4月は、前年の消費税率引上げによる売上げ減少の反動などから、前年を上回った。5月は、前年の消費税率引上げによる売上げ減少の反動や休日の増加に加え、気温の上昇により夏物が順調に推移したことから、前年を上回った。6月は、衣料品は、天候不順やクリアランスセールの後ろ倒しなどにより、前年を下回った。スーパーは、衣料品、飲食料品及びその他製品が前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（7月）[家計動向関連（現状）]

北陸地域の家計動向関連D Iは、51.5となり前月と比べ横ばいとなった。

「今夏、北陸エリアには大型商業施設が相次いで新規開業した。その影響で既存店の集客が一時的に落ち込んでいる（その他小売[ショッピングセンター]）」など、「変わらない」とする回答が増加した。

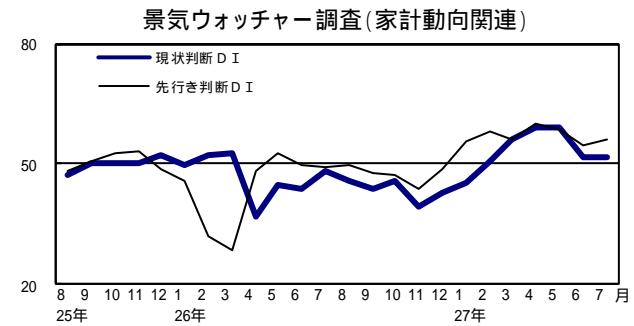
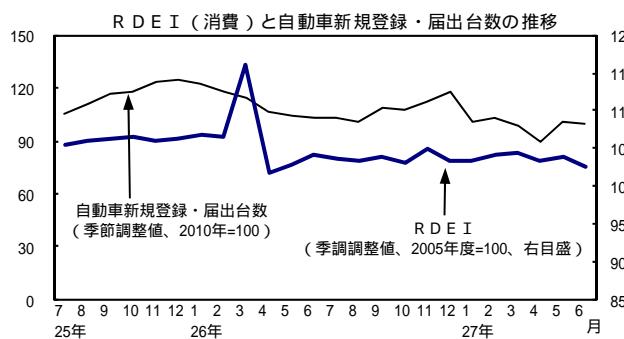


	27年4-6月	27年4月	5月	6月
R D E I（消費*1）	0.6	0.9	0.4	1.1
大型小売店(*2)	5.5	6.1	8.4	2.2
百貨店(*2)	3.8	9.2	4.6	1.5
スーパー(*2)	6.0	5.3	9.4	3.2
コンビニ(*2)	6.9	9.6	7.1	4.1
乗用車(*3)	8.6	15.0	9.4	2.9
(季節調整値)(*3)	3.9	9.0	11.8	0.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%) コンビニは中部

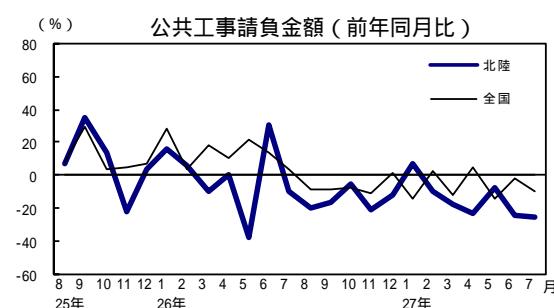
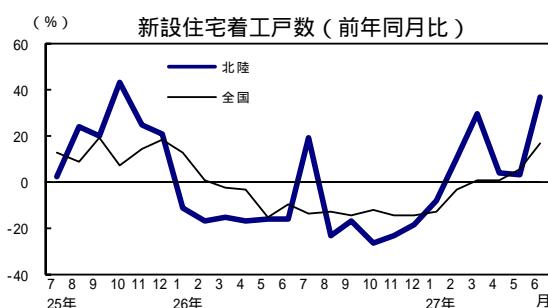
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計でみると前年度を下回っている。

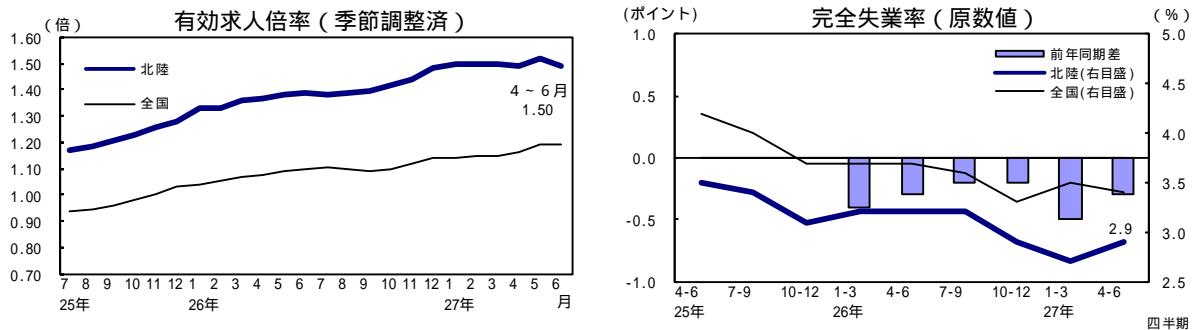


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

「受注数は増えているが、派遣での求職者が全く伸びない。それによりマッチング率が悪い（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

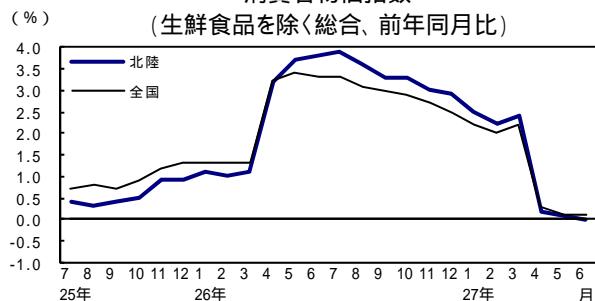
(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少しているものの、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数 (前年比)	56 16.4	51 26.1	50 15.3	59 29.8	18 18.2
負債総額 (前年比)	84 7.8	90 2.1	99 27.8	797 290.4	46 15.8

消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合、前年同月比)



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 原材料の高騰による利益の圧迫はある。しかし、前年比でみるとそれを補って余りある来客数増加に支えられ、業績は好調である。天候に恵まれてもいる（コンビニ）。

<先行き>

- さまざまな企業にヒアリングすると、パートやアルバイトでも時給を上げないと人手が確保できないという話が多く聞かれる（新聞社 [求人広告]）。

景気ウォッチャー調査 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

